

平成27年度第1回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日時：平成27年8月11日(火) 午後3時30分～午後5時	場所：津山市役所2階 第3委員会室
出席者 【委員】 藏田委員長、坂本副委員長、河原委員、多田委員、小山委員、村岡委員、小西委員、赤井委員、定久委員、有宗委員、藤下委員、山田委員、坂手委員 【津山市】 宮地市長、財政部長、財政部次長、財政課職員 【傍聴人】 2名	
<p>1 開会 2 市長あいさつ 3 委員委嘱 4 委員長、副委員長選出 委員長に藏田委員、副委員長に坂本委員を推薦する案を全会一致で承認。</p> <p>5 委員長あいさつ 6 協議事項 (1)津山市の公共施設の現状と課題について(報告) 事務局：津山市公共施設白書(中間報告)および施設調査実施結果について説明。</p> <p>(2)これからの津山市の公共施設のあり方について 委員長：ただいまの報告を受けて、感想でも疑問でも良いので発言を。</p> <p>委員：普段利用している施設が大変危険な状況にあることに衝撃を受けた。この事実を市民は知らずにいるのではないかと、または関心を持っていないのではないかと。改修にも多額の費用が掛かる。利用者の少ない施設は市民のニーズと合致していないのではないかと。広く市民にこの問題に関心を持ってもらうことが重要。</p> <p>委員：今まで、公共施設の老朽化に対して特に危機感を抱くこともなく過ごしてきた。今回報告にあったような公共施設の危険な現状を広く周知する必要があるのではないかと。</p> <p>委員：今日の資料をもう一度深く読み込んで、自分の意見をまとめたい。</p> <p>委員：市営住宅などは、民間借家の活用も含めてニーズに見合った運用を検討すべき。公民館、公会堂のように機能が類似する施設は、設置目的の違いなどがあると思われるが、所管を超えて包括的に維持管理、存続について検討した方が良いのではないかと。幼稚園の再編については、本当に津山市の将来世代のためになることなのか慎重に判断してもらいたい。財政面の問題もあるが、選択と集中によって、本当に必要な施設についてはきちんと費用をかけて存続維持に取り組んでほしい。耐震化工事の実施については、診断結果のみで判断するのではなく、その施設の将来の活用方法を十分に検討したうえで総合的に判断すべきと考える。</p> <p>委員：ただいまの報告を受けて、公共施設の危険な現状に改めて衝撃を受けた。今回現地調査を行った145施設がこのような状況であれば、今回調査対象となっていない施設においても、老朽化が進み危険なものも結構あるのではないかと。必要な施設については当然改修工事を施すべきではあるが、既に使用不能の状況にある施設に対しても改修工事を行い、今後存続させることが本当に最善の方法なのか慎重に判断する必要がある。</p> <p>委員：知新館や鶴山塾のような歴史のある建物の改修には莫大な費用が必要。しかしながら建物の歴史的価値や文化的価値を含めて考えると、存続の是非を決めるのはとても難しい。</p> <p>委員：津山市が所有している施設について、まずは必要度に応じた順位づけをすることが大事。機能が重複している施設についての整理も必要。知新館やガラスハウスについては先の事業仕分けで既に不要な施設という判断が出ているので、市全体として早急に結論を出してもらいたい。</p> <p>委員：更新費用が現状予算の1.4倍必要という試算結果をみても、施設数をかなり絞り込んで大胆に減らす必要がある。</p>	

委員 :	まず白書の数値に驚いた。ガラスハウスについては存続を求める署名が3万人集まったと聞いている。他の公共施設についても、その地域の人達に尋ねれば存続を求める声がほとんど。このような地元の声を考えると、施設を廃止することは非常に難しい。
委員 :	たいへん衝撃的な報告だった。ガラスハウスやアルネ・津山の駐車場など、比較的新しい施設も腐食や老朽化が進んでいる箇所がある。築年数に囚われず新しい施設についてもチェックする必要があるのではないかと。支所の外壁タイルが落下し防護ネットを張っているという報告があったが、これは非常に危険な、人命に関わるような話なので直ちに対策を打ってもらいたい。更新費用の試算結果が示されているが、実際はもっと多額の費用を要するかもしれない。財政面から見れば全ての施設の更新は大変難しいが、公共施設は住民の財産でもあり、そのあたりのバランスを考えて行かなければならない。
委員 :	津山市の公共移設の中で、最も多くの割合を占めているのが学校教育施設とあるが、学校教育施設は最優先でしっかり存続させていくべき施設ではないか。それに比べれば、レクリエーション施設や文化施設の重要度は二の次ではないかと考える。
副委員長 :	施設の維持管理に必要な費用の支出面を見直すことも必要。今ある公共施設はどれも必要があって作られた施設。色々工夫をすることで費用を捻出して、事故や怪我が起きる前にきちんと保全を行ってもらいたい。
委員長 :	衝撃的な報告内容ではあったが、この事実をしっかり受け止めることが、この問題解決の原点だと考える。更新費用の試算結果も重要ではあるが、身近な施設がこれだけ老朽化が進んでいるという事実や、建築技師による分析も非常に重要だと思うので、そのあたりもぜひ白書に反映させてもらいたい。各委員から出た意見をまとめると、個々の施設については今後の活用方法、出口戦略をしっかり意識して、更新問題に向き合っていくことが重要。この問題は人命に関わる緊急の課題でもある。一定の指標を定めて施設の順位付けするも必要なことであるが、同時にその指標に反映されない住民のニーズや地元の声なども加味するバランス感覚も必要である。また、財政の問題も考えて行かなければならない。どのような事業を行うにも財源は大きな制約となるので、いかにしてその財源を生み出していくのか、人口を増やす、コストを削減する以外にも様々な方法があるだろうから、行政も市民も民間事業者も一緒に知恵を出し合っていくことが重要。
副委員長 :	津山市は今ある公共施設は、全て必要な施設であると考えているのか。
事務局 :	例えば小中学校については「全て維持する」という方針があったうえで耐震化を行った。また次年度以降は空調設備の整備を計画している。資料として公共施設についての既存の計画や方針を配布しているので、内容を確認していただいて、さらに詳しい話を聞きたいということであれば、担当者を委員会に招致することも含めて検討する。また、先ほど指摘のあった、勝北支所の外壁タイルの件については、6月に補正予算をつけて直ちに改修工事を行うように指示している。
委員 :	白書にある「歳入の見通し」について、人口の減少率に比べて歳入額の減少率が緩やかなように思えるが、将来の人口減少を踏まえた見通しなのか。
事務局 :	財政計画については、将来の人口予測を踏まえて推計している。市民税は人口減少、特に生産年齢人口の減少の影響を大きく受けるが、固定資産税等はその影響が少ないため、このような推計値となっている。
委員長 :	実際には、支出額の下振れ、歳入額の上振れも起こりうると思うが、人口がV字回復するとは考えにくいので、いずれにしても今示されている財政見通しより状況が著しく良くなることはないだろう。そこも含めて対策や方針を定めて行かなければならない。
(3)その他	
委員長 :	今後予定されている諮問の内容は、津山市公共施設白書(完成版)の案になる。この白書には、公共施設の現状と莫大な更新費用の試算結果について「事実の共有を図る役割」と、今後津山市が公共施設更新問題にどの項目にどのような方向性を持って取り組んでいくのかという「今後の方針を示す役割」がある。そして、主にこの後者の部分について皆さんの意

見を賜るというのが、本委員会の大きなテーマである。今日の協議の中でも、公共施設の今後の役割や活用方法、市民ニーズとのバランスのとり方など、既に色々な指摘があった。それらの内容を整理して、どのような形で白書に盛り込んでいくのかということを議論することが次回の主たる協議事項になるので、そのつもりでお願いしたい。

7 第2回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

日時：平成27年9月25日(金) 午後1時30分 から

場所：津山市役所第2委員会室

8 閉会